

平成26年度文化財保護審議会 会議録

- 1 開催日時
平成27年2月4日（水）
開会 午後1時15分
閉会 午後3時20分
- 2 開催場所
尾張旭市役所3階 講堂1
- 3 出席委員
斎場和志、白鳥真紀、林宏、桐原千文 4名
- 4 欠席委員
なし
- 5 傍聴者数
0名
- 6 出席した説明者
公益財団法人 瀬戸市文化振興財団 埋蔵文化財センター副所長 岡本直久
- 7 出席した事務局職員
教育長 玉置基、教育部長 長江建二、文化スポーツ課長 三浦明、
文化スポーツ課長補佐 関本さゆり、文化スポーツ課副主幹 林正信、
文化スポーツ課 久保麻衣子
- 8 議題等
 - (1) 平成26年度文化財保護関連事業の実績等について
 - (2) 卓ヶ洞古窯群の発掘調査について
 - (3) その他

8 会議の要旨

会長	ただ今から、平成26年度尾張旭市文化財保護審議会を開催いたします。 尾張旭市文化財保護条例の規定による定足数に達しておりますので、会議を始めたいと思います。 議題に入る前に玉置教育長よりあいさつをお願いいたします。
教育長	(あいさつ)
会長	ありがとうございました。 では、議題に入らせていただきます。 お手元に次第があると思いますが、本日会議の議題が2つございます。 議題(2)の卓ヶ洞古窯群の発掘調査についての説明をしていただくため、公益財団法人 瀬戸市文化振興財団 埋蔵文化財センターの岡本副所長にお越しいただいておりますので、前後しますが、先の議題(2)卓ヶ洞古窯群の発掘調査についてから進め

	たいと思います。では、お願いします。
岡本副所長	(資料2に基づき説明)
会長	ありがとうございました。 それでは、ご質問がありましたらお願いします。
白鳥委員	私の家の近所にあるこの卓ヶ洞は、子どもの頃から慣れ親しんだ思い出もあり、保存していただきたいと強く思っておりました。 副所長のご説明で、昭和40年当時の調査は窯跡の床面までしか調査されていなかったとおっしゃられました。調査の仕方が良くなかったということでしょうか。今回、前回調査した窯跡の下まで調査されたそうですが、前回の調査では、その下までは調査されていなかったということでしょうか。
岡本副所長	昭和40年時の発掘調査の成果というのは、実際、今回調査してみても分かった事としては、掘るべき部分が掘られていなかったということはありません。 ただ、調査をする時にはこういうものが出てくるだろうという先入観があって、それを元にして掘っていきます。今であれば、いろんな発掘調査のデータが蓄積されていますので、自分の中で想定されるというのがあるのですが、当時の場合は、まだそういう情報がない状態で調査に入っていて、船底ピットについてはその当時というのはほとんど認識されていません。 ですから、床面まで掘ってしまうと窯の調査はそこまでが限界です。そこからは掘ることはしません。そういう調査の仕方を当時はしていましたので、調査の仕方が良くなかったということではなくて、当時の調査の形としては、窯の形を出すということを前提にして調査をしていますので、そこまでしか掘らなかったということです。
白鳥委員	古窯がどういう状態であったかが重要だと思います。「前回の調査で土が取られているので調査がきちんとできなかった、使われなくなった土器が捨てられた場所ではないか」と言われましたが、以前の調査で出土した遺物は、整理されていて調査報告書は作成されているのでしょうか。
岡本副所長	当然それは昔からやっていることですから、当時の調査でもやっております。 ただ、図面関係については、保管していた施設が火事に遭いまして、図面とか写真とか全て焼けてしまっているのです。記録としてはもう現存しないのです。
白鳥委員	調査がどのようにされたか、どんな状況であったか判断できないのでしょうか。
岡本副所長	判断は当然できないのですが、上に積んである土はどのような土であるのかということは当時から必ずやっていることなので、当

	<p>時調査担当した担当者の人がそれはやらなかったということはないと思います。記録として残したはずです。</p>
白鳥委員	<p>調査は専門家が調査したのでしょうか。</p>
岡本副所長	<p>当時は専門とする発掘調査機関というものがほとんどありませんでした。なので、例えば、学校の先生が生徒を連れて行き調査するだとか、地元のそういう事が好きな人達が集まってクラブみたいなものを作ってやるだとか、そういう調査の仕方しかやっていませんでした。</p> <p>今のように行政機関が調査に関わることは、かなり、それから後になって整備されてきていますので、当時は、大変努力して、調査していると思います。</p>
白鳥委員	<p>埴輪が出てきたことで、近隣の志段見地区に存在する古墳との繋がりなどが分かるのでしょうか。</p>
岡本副所長	<p>卓ヶ洞古窯からは、埴輪が出てきているということは既に分かっていることです。埴輪の重要性はどこでも同じで、古墳との繋がりということです。埴輪は基本、古墳でしか使われないものですから、古墳の調査っていうのが重要だという時には必ず埴輪の調査も重要だと考えています。埴輪が出てくる窯はそれと繋がって、すごく重要だということになります。</p> <p>古墳の研究者っていうのはそういった埴輪も重視していますので、埴輪を焼いた窯も重視します。ですから、卓ヶ洞で埴輪が焼かれていることが確認されたことには、もう皆さん注目はしています。それがいつ位かと言われますと僕もその辺までは詳しくは分かりませんが、我々が調査に入ったということを聞いて、現地にも何人か、専門の方が見えたりしていますので、かなり注目されているのだと認識しています。</p>
林委員	<p>昭和40、41年の広報おわりあさひの表紙に、発掘風景が載せられました。</p> <p>その写真なんかで特徴的なのは、先生方だけでなく、地元の小学生や中学生など一般市民の方までも掘って、あるいは、見学して参加したようですね。それを掘った主体が名大の先生が中心に掘ったと思います。広報おわりあさひでも、その成果は紹介されているわけですね。だから、40数年前の話ですけども、市民の方に卓ヶ洞のことは随分知られたと思います。</p> <p>もう一つ、城山古窯ですね。あそこを七原先生という方が中心になって掘られて、一時、東山の古窯よりもっと古いものだと評価をされた時代がありましたね。今は、それはちょっと、東山の古窯の方がやっぱり一番古いのではないかと、そこから派生した窯がこの城山の古窯であり、卓ヶ洞の古窯ではないかという評価が多分定まってきているのではないかと思います。</p>

	<p>今の話の中で志段味の6世紀の古墳とこの卓ヶ洞の埴輪が共通するかもしれない。科学的に申せば、調査で、土の組成をしっかりと調べればこの同じような時代のものだということが分かるわけですが、それはいつ頃、結果が出るのでしょうか。</p>
岡本副所長	<p>分析については、今回の中には含まれていないのです。ですから、それは今後の課題になってくるだろうと思います。古墳の中から出てきている埴輪の分析の方は行われているかどうかは、私は確認しておりませんが、今回の卓ヶ洞の調査の結果報告の中ではそこまでは出来ないだろうと思います。</p> <p>城山のものについても、それから古墳から出てきているものについても、総合的に科学的な分析も含めてまとめていく機会を近いうちに設けていかなければいけないなどは思っています。</p>
林委員	<p>そういうことですよ。遺物の所有者がそれぞれ違うわけですよ。志段味の方の古墳っていうのは名古屋市博物館の方でしょう。そこら辺でうまく情報を共有し、共同研究しないとそこら辺の結論がなかなか出ないですよ。</p> <p>もう一つは、東谷山の山頂の3古墳ですね。あれはもっと古いものですね。</p> <p>そこは卓ヶ洞でもないし、城山古窯の窯ではないし、そうすると頓挫してしまうのではないかとそういうこともあって。</p> <p>それと城山古窯ね。あそこは大きかったものですから、そこが古代須恵器編年のどの時代にあたるのかは、私も勉強していないので、分かりませんが。城山古窯もね志段味の古墳群との関係が分かると、ものすごく大きな成果になりますよね。探求していただきたいなと思っています。尾張旭の評価も上がるかと思えます。</p>
岡本副所長	<p>名古屋市博物館の方も見えて、特に志段味辺りを中心に研究されている方もみえて、すごく興味をもっていらっしゃいましたので、その方とも色々情報を公開していきながら、そういうところまでもやっていきたいなと思っています。</p>
白鳥委員	<p>今までにも申し上げていますが、建物を建てる前や開発の許可を出される前に、対象が重要度の高いもので保存すべきかどうかについて先立って調査を行い、その上で保護すべきかどうかを判断しなくてはならないのではないのでしょうか。文化財として貴重なものがあっても、今まででも全て取り壊されてしまっています。文化財保護に対する尾張旭市の姿勢はどうなっているのか、ということ強く思います。</p> <p>この会議に参加させていただいた10年以上の間に、何度も私が申し上げたにもかかわらず、同じことが繰り返されています。非常に残念です。</p>

事務局（林）	開発という形ではないですが、家庭菜園にという話があり、現状を確認することが妥当かと思い、何回か事業者の方と交渉しました。私どもも歯がゆいところです。
三浦課長	<p>担当者の説明を補足させていただきますと、その地主さん、不動産業者になります。何度もお話をしました。来ていただいたこともありますし、我々も会社へ出向きまして、「守りたい」ということをきちんと言いました。</p> <p>ところが、やはり民地ということもあり、当然そこには利益というのがありますので、止めることはできませんでした。その旨はきちんと県の文化財保護室に相談しまして、アドバイスを受けて、こういう形になっています。ですから、今後につきましては、このようになった以上、きちんと記録保存しまして、出てきた遺物についてもきちんと市民の皆さんに何らかの形で公開していくことが僕らの責務だと思っております。今回の卓ヶ洞に対する対応はそういう対応になります。</p>
白鳥委員	今までもそういう地区に関して、調査する前に開発が動き出してしまうということがありました。基本的な問題として尾張旭市に、文化財を守ろうということをふまえて、保存していこうという視点が弱いので、育った地区にせつかく貴重な文化財が有るのに、結果としてそれを失ってしまうことは非常に残念なことです。
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>また是非、専門的なお話を聞かしてください。そのような話を聞くと、余計、委員のおっしゃる気持ちも分かるという印象を持ちましたので、またよろしくお願いします。</p> <p>岡本副所長ありがとうございました。</p>
岡本副所長	（退室）
会長	<p>今の白鳥委員のお話は、お金も時間も非常に息の長い話だというふうに思います。文化財行政に、やっぱりどういう風に審議会の意見が活かされていくのかという部分でも、特に委員の皆さんは非常に熱い思いを持ってみえますので、反映していただけるように、よろしく願いしたいなと思っています。</p> <p>白鳥委員も今のことは、よろしいですか。</p>
白鳥委員	はい。
会長	ありがとうございます。
林委員	卓ヶ洞の古窯ですが、古い時代の窯跡の最後の一つなのです。もうこれに類似するものは発見されないのではないかと。もうちょっと時代が下って、鎌倉時代位になると窯が出るかもしれないですけど、古墳時代の窯は非常に貴重だったのです。その最後の一つ、現物がまだ残っているのが、あと5号窯、6号窯も殆ど宅

	<p>地化されているところですよ。この1ページの地図を見ても、家の絵がいっぱいで。ですから、最後に残った希望がこの2号、3号、4号だったのですよ。それがなくなったって事は、もう尾張旭の古墳時代の窯は壊滅したということをやはり人々が知ってもいいことだと思います。そういう歴史的な、貴重な遺跡がまた一つなくなった。こういう古墳をこういった形で記録として残すことも大事ですけども、個人の方ではどうしようもありません。市としてそういう文化財を大事にするかどうかというそういう姿勢でしっかり考えを持っていないと、個人は自分の利益を追求していくので、そうすると遺跡はどんどんなくなってしまいます。それでも尾張旭はそれでいいのかという行政に対する一つの注意信号が寄せられたということだと思います。</p> <p>志段味では市民運動が起きています。我々はそういった市民運動にまでにはなっていません。市で出来る限り貴重な財産を残して行っていただきたいと思います。</p> <p>よろしくをお願いします。</p>
会長	<p>とりあえず、次へ進めさせていただきます。</p> <p>それでは、今、議題2の方を先にやりましたので、戻りまして議題1に移ります。平成26年度文化財保護関連事業の実績等について、資料1を見て、説明をお願いいたします。</p>
事務局（関本、林、久保）	（資料1に基づき説明）
会長	<p>説明が終わりました。</p> <p>それでは、文化財の関連事業について、ご説明をいただきましたが、ご意見、ご質問等ありましたら、お願いします。</p>
林委員	<p>2ページ目でございますけども、史跡等保存公開事業の中の考古企画展、スカイワードあさひのですね。そこで本当に素晴らしいと思うのは「2000年弥生ムラ最古の集落遺跡」という題の、テーマの企画がありますね。こちらがもうじき始まるわけですね。</p> <p>この中を見ていただきますと、編集は「NPO 法人 古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク」と書いてあるので、尾張旭の方ではないですよ。犬山市の青塚古墳等の遺跡保存等を中心としているグループだと思うのですが、その方がこちらに興味を持たれて出張してきてページを作ってくれているということですか。</p>
事務局（林）	<p>通称「ニワ里ねっと」と言われますが、その理事長が、昔、長坂遺跡の調査発掘に関わっておられ、過去に調査し興味を持たれておりましたので今回お願いしました。</p>
林委員	「ニワ里ねっと」さんのご好意ですか。
事務局（林）	委託事業です。
林委員	委託されるとのことですが、興味があるだけでなく、考古学に

	<p>関して専門とされているのでしょうか。</p>
事務局（林）	<p>理事長が愛知県埋蔵文化財センターに勤務されておられ、考古学に関しては専門的な知識をお持ちの方です。</p>
会長	<p>他によろしいですか。</p>
林委員	<p>はい。もう一点あるのですが。</p> <p>今、事務局のお話の中に、殿様街道の入り口表示を作っていただけということで大変有難いと思います。殿様街道の入り口も消滅してしまって、つんぼ石の位置も変わってしまって、殿様街道が本当にずたずたになり、ほんの少ししか残っていない。</p> <p>つい最近、知ったことですが、初代尾張藩主 徳川義直公の側室であられたお佐井様とって、お城暮らしが退屈なので毎年秋になると、きのこ狩り、松茸狩りに尾張旭に来られたそうです。そこで、地元の人に大変親切にいただいたと。当時は、稲葉村だったのですけどね。徳川様の側室のお佐井様の話は、随分尾張旭に関わっていたらしいです。</p> <p>殿様との関係をもっともっと発信していくと、地域の方も興味をもたれるのではないかと思います。</p> <p>つんぼ石の元の位置に表示をつけていただけることは、とてもありがたいことです。</p> <p>以上でございます。</p>
桐原委員	<p>白鳥委員のご意見は、文化財を保存していく上で大切なことだと思います。</p> <p>市民向けの報告会や郷土の歴史講座や、スカイワードの考古企画展も開催されていますが、私は、55年頃にこちらに来て、35年近く住んでいますが昼間は名古屋で勤務し家にいないので情報が入ってこないんです。退職してリタイヤされた方が見えるでしょうからそういう方々で、講座に参加される方々は地域に興味を持つ余裕があると思います。それだけではなく、広報の講座に参加していただき、地域に文化財があれば以前から市民に知っていただき蓄積していくしかないと思います。その中で、やっぱり残した方がいいよねという想いを積み重ねていく。</p> <p>DVDもせっかく作成するのであれば、市民の方々に見ていただくと良いと思います。一つ一つ参加しないと知らないです。</p> <p>お母さん方は良く知っておられるので、展覧会と一緒に関連した企画を行っていかれてはどうでしょうか。</p> <p>ボランティアグループも地域におられるのでしょうから、それを素材にして企画されれば、地域に住んでいる皆さんが少しでも開発が先かどうか考えられていくと思います。</p> <p>マメナシ・アイナシも市民の目が、釣り人が入ることは駄目だよという方向になっていく。そういう機会を作っていくと良</p>

	<p>いと思う。成果を市民に向けていかれると良いと思う。</p> <p>せっかく調査されたので市民に分かりやすく知っていただけるような会を開催され、できれば分かりやすく市民に伝えて、何でもかんでも開発が先かどうか、それは何なのか説明していけば、そうなのか、残していかなければならないと思っていただければ、それが市民の声として保存する方向に向いていくのではないのでしょうか。</p> <p>卓ヶ洞も調査結果が報告書となると思います。その報告書をもとに市民向けの報告会などを行うということは予定されているのでしょうか。</p>
事務局（林）	<p>来年3月に報告書が発刊される予定ですので、市民の皆さまに郷土の歴史講座等で卓ヶ洞を題材にして市民向けに紹介していきたいと思っております。</p>
会長	<p>郷土の歴史講座ですと特定の方になりますよね。</p>
事務局（林）	<p>スカイワードあさひの考古企画展でも広く皆さんに見えていただけるよう取り上げていけたらと考えております。</p>
三浦課長	<p>ありがとうございます。今いただいたご意見で、先ほど、打ちはやしのDVDなんかも保存会のためにではなく、市民のためにという視点が僕らにはなかったなと反省しております。今、委員が言われたように、せっかく素材があるので、広く市民の皆さんに伝えていく機会を設けていきたいと思っております。ありがとうございます。</p>
会長	<p>「した方がいいよね」というそういう感覚というのが、やっぱり広く伝わっていくといいですよ。なかなか広く市民にという感覚が実は無いものです。これはこれとして、講座ももちろん良いとは思いますが、それとは違う方法、その感覚で受け止められるようなものもあってほしいなど。</p> <p>やっぱり白鳥委員がおっしゃった事は簡単に実は出来ないと思うのです。いろんな意味で。ただほっといたらなくなってしまうよというものですから、息の長い活動が必要だという話になります。今、桐原委員がおっしゃったようにやっぱり長い目で見て、どうその気持ちを高めていくのかが必要かなという気がします。だから、文化財行政はすごく大変な話だと思います。</p> <p>でも、一応、それ進めていこうというふうにしているわけですので、是非、林委員、桐原委員にしても非常に人材は豊富だと思いますので、いろんな機会で活躍していただけるのではないかなというふうに思っております。</p> <p>もう一つ、先ほどの打ちはやしの方ですが、三郷小学校で地元の方達が子供たちに教えに行かれるという、そういう動きは非常に大事な事だと思います。</p>

	<p>渋川が学校ぐるみで打ちはやしをやっていますので、ああいう活動っていうのは若い親御さん達には新鮮なものとして映っています。実は西中学校も渋川でせっかくあんなに活動をしているのに、中学校ではなかなか広がらないなと思っていましたら、これで2年になるのですが、「庄中の打ちはやしの方達に入ってもらって練習して文化祭に発表しない。」って先生が声をかけられたら、結構有志の子たちが何人か出てきたそうです。渋川の子たちだけでなく、白鳳の子たちもやりたいということで。発表会をこの2年やっているのですね。だからそういう取り組みもできたら、東中でもそういう方達を中心となって指導にあたって、広がっていくといいなと。そういう取り組みの方が自然かなと思うのです。よろしくをお願いします。</p>
林委員	<p>子どもは将来継承するかどうか分かりませんが、郷土を大切にしていける良い機会だと思います。</p> <p>市主催の新春ふるさとカルタ会の中で、旭中の一人の生徒が、「あ」を読み手が読むと、次々に次の句を暗記していて、自分で口ずさんでいくのです。大変うれしく思いました。史跡めぐりも子どもたちを対象にしてはどうかとご提案いただきました。郷土を愛する気持ちを育てていくことは大変良いことだと思います。</p>
会長	<p>その他にご意見、ご質問等がありますか。</p> <p>その他の方へ移ります。それでは3のその他へ、何かございましたら、お願いします。</p>
林委員	<p>すみません。時間が予定時間を越えてしまって、大変申し訳ないのですが、よろしいでしょうか。</p> <p>ちょっと話題提供と言いますか今感じていることがあります。</p> <p>実は、地名のことですね。尾張旭の六ヶ村の江戸時代の中期から後期に描かれた村絵図というものがあります。それで私たちがその江戸時代の当時の尾張旭の郷土を知りたいという時に唯一、利用するのが尾張旭市誌の資料編、昭和46年に出来た資料です。今、配りました寛政5年の狩宿村の図と、資料編をそのままコピーしてまいりました。</p> <p>こういう尾張旭市誌の資料編から私たちは見て、村絵図が、こういう物だと。現実はずね、この写真の文字は小さいし、手書きで書かれてあって、江戸時代に書かれた図ですけども、なかなか見辛いです。それで私たちが尾張旭の古いことを調べようとすると、現物の写真や本なんかは見られないのです。狩宿村でも、新居村でも、46年前にどなたかがトレースしたこういう読みやすいもので、私たちは見ますね。</p> <p>私はふるさとガイド旭というのに入っていて、ガイドに役に立つので、江戸時代の六ヶ村を調査しています。</p>

	<p>例えばですよ。寛政5年の狩宿村図というのですね。ここの辺りに有名な地名、「アガタギ」という地名があります。「アガタギ」全部カタカナで書かれているのですが、随分小さいので分かりにくいと思いますが、トレース図を見ますと、「アガタギ」の「ギ」が「木」と植物の木になっているのです。それでこれを見た多くの方が、「アガタ木っていうのは木の名前ですか？森の名前ですか？」と、そう勘違いされたのです。そして、考古学の先生も調査書に「アガタ木」と。また、古墳の調査をされて「アガタギ」のことを書いた人もいます。その方も、「アガタ木」と書かれ、森があったとして「アガタ木の森」と言ったものですから、そういうふうに考察されてしまい、ちょっとおかしなことになっています。</p> <p>実は、その「アガタギ」は、今、瀬戸川町ですね。瀬戸川町の山の神神社の境内の入り口のところに、市で立てられた説明がありますね。あそこにも「あがたぎの森」という表題が書かれてあるのですが、「あがたぎ」の「ぎ」が漢字の「木」となっているのですよ。実は「木」ではなく、「あがたぎ」の「ぎ」というのはあるところの土地を表しています。「あがたぎ」とか、なまると「あがたげ」になるのです。「あがたぎ」とは「あがた」がある土地の場所を表しているわけです。「あがた」というところがあって、その土地のこのようです。こういうトレースの字を間違えることによって、影響は随分出ているわけです。これは一例ですけども。</p> <p>資料集が今の状態のままでは、良くない状態であると私は感じましたので、皆さんにも知っていただきたいと思ってお話させていただきました。</p>
会長	ありがとうございました。事務局側の方は何かありますか。
事務局（関本）	<ul style="list-style-type: none"> ・城山公園の拡張計画について ・平成27年度市民祭における警固まつりについて (2点について報告)
会長	ありがとうございました。これで以上全ての次第を終了します。
長江部長	(あいさつ)
会長	<p>これですべての次第を終了します。</p> <p>これを持ちまして、平成26年度文化財保護審議会を終了いたします。</p>